

さぶりめんと

2024-Jun

No. 66

胃がんに対するロボット支援下手術

消化器外科 杉村 啓二郎

■ ロボット支援下手術とは？

ロボット支援下手術とは、内視鏡下手術支援ロボットを用いて行う手術です。患者さんのお腹にあけた小さな孔に内視鏡や手術器具を取り付けたロボットアームを挿入し、医師が“コンソール”(図1)と呼ばれる操作ボックスの中で内視鏡画像を見ながら手術操作を行います。



(図1) コンソール

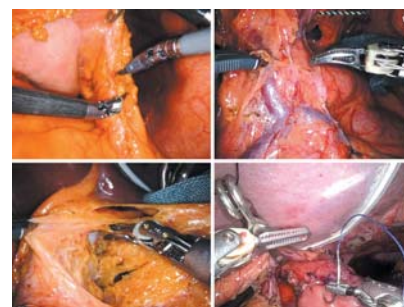
■ ロボット支援下手術の2つの利点

(1) 高解像度三次元画像と拡大視効果

従来の腹腔鏡手術では、二次元の画像を見ながら手術操作を行ってきましたが、ロボット支援下手術では三次元の画像が得られるため、奥行きを感じながら手術を行うことができます。また、高画質カメラで画像を拡大して手術を行うことで、術後の合併症を軽減することができ、難易度の高い手術でも安全に低侵襲に行うことができます(図2)。



(図2) 手術風景



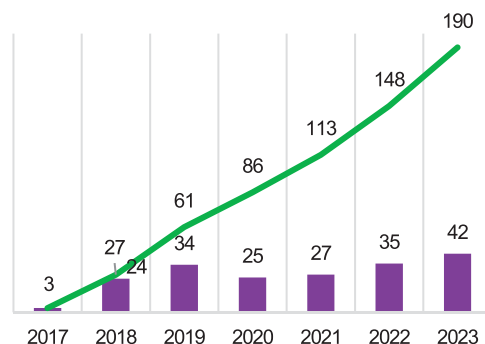
(図3) 鉗子の術中写真

(2) 鉗子の関節機能と手振れ防止

従来の腹腔鏡手術は鉗子と呼ばれる直線状の手術器具を用いており、鉗子の動きは限られたものでした。しかし、ロボット支援下手術では鉗子に関節機能がついており、人間の手首や指と同じように操作することが可能です(図3)。さらに、手振れがないために、より精緻なリンパ節郭清や消化管の吻合が実施できるようになっています。

■ ロボット支援下胃切除術の適応

2018年4月より、胃がんに対するロボット支援下手術については、厳格な条件を満たす認定施設でのみ保険診療を実施することが認可されました。当院においても、ロボット支援下胃切除術を保険診療として実施し、これまでに、190例のロボット支援下胃切除術を実施してきました(2024年3月現在)(図4)。当院ではダビンチXiを導入し、2台体制で手術を行っております。



(図4) 当院のロボット支援下胃切除術件数

胃がんに関する詳しい治療方法などについては、お近くの消化器外科専門医までご相談ください。



関西ろうさい病院の理念

●● 良質な医療を働く人々に、地域の人々に、そして世界の人々のために ●●

病院運営の基本方針

- ・私たちは、働く人々の健康確保のための医療活動、即ち「勤労者医療」の中核的役割を担って、これを推進します。
- ・私たちは、高度急性期医療機関として良質で安全・高度な医療の提供を行うとともに、地域の諸機関と連携して地域医療の充実を図り「地域に生き、社会に応える病院」としての発展を目指します。
- ・私たちは、患者さんの権利を尊重し、医療の質の向上ならびに患者サービスの充実と励み、「信頼され、親しまれる病院」作りを心がけます。
- ・私たちは、「開かれた皆様の病院」として、ボランティアや有志の方々の病院運営への参加・協力を歓迎します。
- ・私たちは、病院使命の効果的な実現のために「働き甲斐のある職場」作りを行い、運営の効率化と経営の合理化を推進します。

イメージキャラクター
かんろっこ

さぶりめんと

2024-Jun

No. 66

脳神経外科(脳卒中)について

脳神経外科 村上 知義

脳卒中とは？

脳にはたくさんの血管があり、酸素や栄養を脳に供給しています。これらの血管が破れて出血したり、詰まったりして起こる病気を「脳卒中」といいます。脳血管が詰まるタイプを脳梗塞といい、脳血管が破れるタイプを脳出血といいます。また、脳血管にできた脳動脈瘤(コブ)が破れると、くも膜下出血になります。

当院の脳卒中センターについて

関西ろうさい病院脳卒中センターは、現在スタッフ総勢14名(日本脳神経血管内治療学会専門医3名(指導医2名)、日本脳卒中の外科学会技術認定医2名(指導医1名)、日本脳卒中学会専門医4名(指導医3名))を擁しております(図1)。脳神経外科医が毎日当直をしており、24時間365日、治療可能なシステムとなっております。当センターでは、「切らずに治す」脳血管内治療を第一選択とし、患者さんの状況に応じて切って治す直達手術も駆使する「脳血管外科二刀流®」(商標登録)(図2)で、安全性を担保しながら、できるだけ患者さんの負担の少ない治療を行えるよう、積極的に取り組んでおります。

ここでは、脳梗塞、脳出血、脳動脈瘤に対する当センターでの代表的な治療方法について紹介します。

脳梗塞に対するカテーテル治療(血栓回収療法)

脳の血管に血栓が詰まると脳梗塞になってしまいます。その血栓を回収することで脳血流を再開通させ、脳梗塞の範囲を小さくすることができる治療方法があります。血栓を回収するためにステントリトリバー(図3)や吸引カテーテルなどを組み合わせて回収します。

脳出血に対する外視鏡／内視鏡手術

脳出血の治療方法に開頭血腫除去術という方法があります。これは頭蓋骨を開け、脳内にできた血の塊を除去する手術です。当センターでは、患者さんの状況に応じて、外視鏡(図4)あるいは内視鏡を用いて、傷跡ができるだけ小さくなるよう取り組んでおります。

脳動脈瘤に対するカテーテル治療

脳動脈瘤に対するカテーテル治療は、細いカテーテルを用いて、血管の内部から脳動脈瘤を治す新しい治療法です。動脈瘤内にプラチナ製のコイルを詰める「コイル塞栓術」(図5)があります。また、当センターでは2019年より、特殊なステント(フローダイバーター)による脳動脈瘤治療(図6)を行っています。この治療は、フローダイバーターを留置するだけで脳動脈瘤を閉塞することができるという画期的なものです。



(図1)スタッフ



(図2)「脳血管外科二刀流®」(商標登録)



(図3)ステントリトリバー



(図4)外視鏡



(図5)コイル塞栓術 (図6)フローダイバーター留置術